

マザー
キラー

とも呼ばれ命にかかわる『がん』です

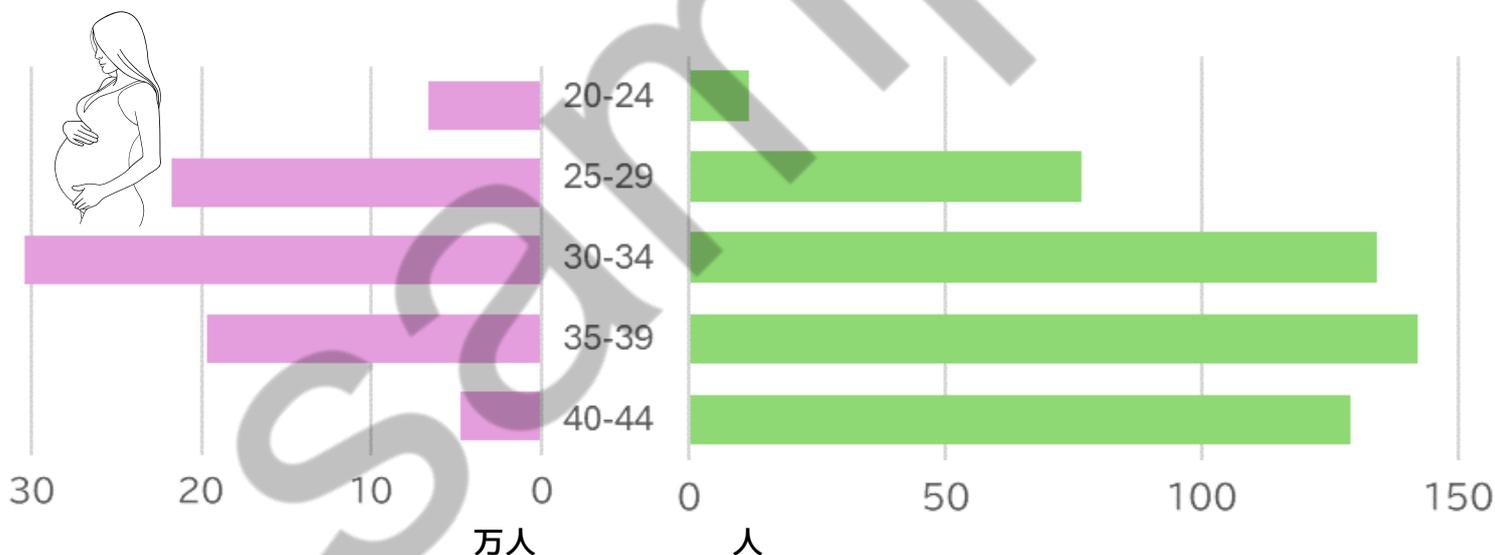
『子宮頸がん』が若い人に

増えています



2019年に子宮頸がんと診断された人は、**10,879**人で、
2020年に子宮頸がんで亡くなった人は **2,887** 人と、近年
増加傾向にあります。

子宮頸がんは若い人がかかりやすく、20～30代の女性がかか
るがんの第1位です。出産適齢期や子育て中の方が命を落とす
ことも多いことから、「マザーキラー」とも呼ばれています。



母親の年齢別出生数 (2020年)

子宮頸がん罹患率(対人口10万人・年、2020年)

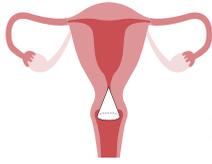
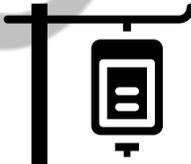
※上皮内がん含む

厚生労働省 人口動態統計月報年計(概数)の概況 母の年齢(5歳階級)・出生順位別にみた
出生数の年次推移 より作図

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai15/> (Accessed
Oct. 24, 2022)

国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」より作図

子宮頸がんは『**早期発見**』が とても重要です

進行期 分類	0期	I a期	I b期	II期	III期	IV期
がんの 状態	上皮内 がん	微小浸 潤がん	浸潤がん			
治療	 子宮頸部 円錐切除  妊娠可能	 子宮全摘出術  妊娠 不可能	 放射線療法	 化学療法		
5年 生存率	 ほぼ 100%	 95%	 80~85%	 60~70%	 約40%	 0~15%

アイラボ ホームページ(<https://ilabo-cyto-std.com/knowledge/cancer-hpv/11363>)参照

子宮頸がんの治療では、早期とされる**ステージI**の段階でも子宮を摘出しなければならないことがあります。妊娠判明後にかんが見つかって、赤ちゃんとうちを同時に失ってしまうという悲しい事例も生じています。

進行した場合、妊娠をあきらめなければならない他、リンパ浮腫や排せつトラブル、性交障害といった後遺症も大きくなり、生活に支障が出ることも多くあります。一方、検診でがんになる前の段階で見つけて治療することも可能です。

ご自身のため、できるだけ早く見つけて治療することが大切です。



後遺症の一例

リンパ浮腫

日本医科大学形成外科学教室HP
(<https://www.nms-prs.com/outpatient/02/index.html>)より抜粋

子宮頸がんはワクチンと検診で



"予防" できます



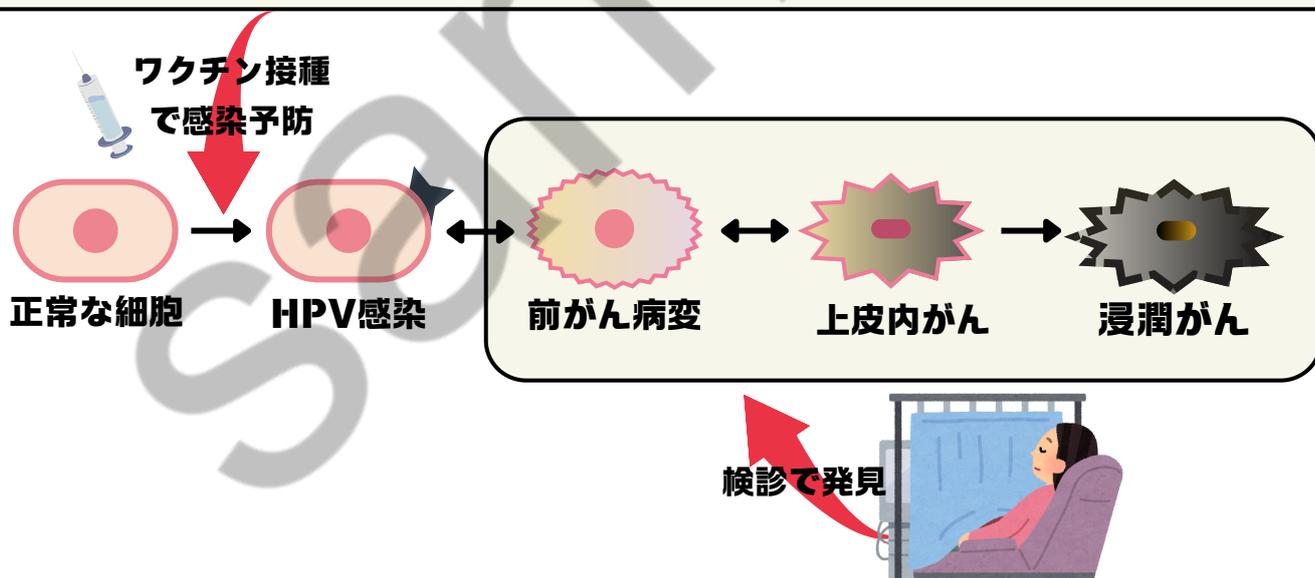
子宮頸がんの原因の大部分はHPVウイルスの感染です。性交渉で感染しほとんどは免疫によって自然消滅しますが、一部感染が継続すると細胞が異常化し、数年を経てがんに行進します。

HPVワクチンはがんになるリスクの高いHPVウイルスの型の感染を予防し、がんになるリスクを下げることができます。

●ワクチンの効果



2・4価のワクチンでも子宮頸がんの原因として最も多い2つのHPV型の感染を予防できます。



ワクチンを接種していても子宮頸がんを完全に予防することはできません。子宮頸がんは自覚症状に乏しいため、早期発見のためには定期的な検診が何より重要です。子宮頸がんは深刻な病気ではありますが、ワクチン接種と定期的な検診で予防することができます。

大切なあなたの身体を子宮頸がんから守ってあげてください。